

祝福への招き

(イザヤ書 30 章 18-21 節 マタイによる福音書 5 章 3-12 節)

2022 年 1 月 31 日 主日礼拝

日本基督教団仙川教会

大串肇

イエスはモーセのように山に登り、人々にお語りになりました。これが山上の説教と呼ばれる有名なイエスの説教です。この説教は弟子たちだけではなく、群集に向けて、つまり、すべての人々に向けて語られています。

「心の貧しい者」「泣いている者（悲しむ者）」「飢え渴く者」たちに向かって、イエスは祝福を約束されました。実際に貧困、抑圧、差別など実様々な困難にあっている人々のことが念頭に置かれています。しかし彼らは見捨てられていません。神は必ず彼らを慰め、満たされます。そういう神の救いをイエスはお示しになりました。これらの救済の約束は、やがてマタイの教会の人々にとっては光を照らし始めました。教会は 11 節にあるように「わたしのために（＝イエスのために）ののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられ」、12 節「前の預言者たち」と「同じように」ユダヤ人たちから「迫害され」ている状況にあったからです。異邦の地にあつてさらなる福音伝道を使命としていたマタイの教会にとりまして、貧しさも悲しみも、飢えも渴きも他人事ではなく、「義のために迫害されている」ことであり、「義に飢え渴く」故であり、なによりも天の国の福音を宣べ伝えるゆえの困難、貧しさであり、飢えであり、苦しみであったと言えるでしょう。そのような状況のもとでこそ、「天の国はその人たちのものである」と語られているのです。

だからこそ「喜びなさい。大いに喜びなさい」、「天には大きな報いがある」という期待と希望が示されているのです。伝道の困難に直面しながらも果敢に天国の福音を見知らぬ大勢の人々に伝道しようと励んでいる教会共同体に大いなる祝福があることを見失ってはならないのです。それが信仰共同体の真の姿です。

「憐れみ深い」事、「心の清さ」、「平和を打ち立てる」人々への祝福の背後には、ひたむきな神への信仰があることを見逃してはなりません。彼らはもともと「いい人」であったとか、立派な行いをした人たちであったのではありません。神への信仰がそのような前向きな生活を生み出す力になるのです。

「心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。」（5:3）

この最初の言葉は、主イエスの祝福の言葉のいわば表題であり、主題であると言えるでしょう。悲しむ者や飢え渴く者への祝福は、この「心貧しき者」への祝福を具体化しているものだからです。また「天の国はその人たちのものである」という約束はそっくりそのまま最後の 8 番目の祝福の言葉（10 節）の結びにもなっています。こうして 3 節から始まる 8 つの祝福の言葉は 10 節ではっきりと枠づけられ、イエスの山上の説教における祝福の言葉として完結しています。

いったい「心の貧しい者」とはどういう人の事でしょうか。心の貧しさとは一言で言えば、色々な意味で「絶望」しているという意味です。自分自身を助けることが出来ないと感じて、神の前に救いを求める人です。神の御前に自分はひとかけらも価値がない、無に等しい、そういう打ち砕かれた思いにある人のことです。しかしそういう人に「天国」が言い渡されるのです。天国とは何か。それは地上のどこかにある理想社会のことではなく、イエスの福音によって与えられる恵みであり、「慰め」であり、「豊かさ」です。自分の力ではなく、神の慰めや憐れみを求める者は豊かに与えられます。

他方、「心の貧しさ」は神に対する姿勢であり、隣人への態度であると言えるかもしれません。つねに神の前にあつて心悔い改め、へりくだることがキリスト者の生活として求められています。「心の清さ」とは神への従順です。しかしその謙遜のゆえに、他者に対して自分の思いを抑制し、柔和であり、憐れみ

深くある姿勢、平和への歩みが生まれ出てくる希望があるのです。

しかしこれはすべて神の御力であるという点を忘れてはなりません。わたしたちは神から「祝福されている」のであって、その恵みはわたしたち自身の報酬ではありません。既に大いなる決定的な救いは、イエスの十字架と復活によって成し遂げられているのです。わたしたちは既に救われているのです。だからこそ神の救いの恵みにお応えしようという祈りや願いをもってわたしたちキリスト者としての歩みが始められるからです。わたしたちが自分自身に絶望するような辛い体験、人生のマイナスのように見える時でさえ、信仰を通してわたしたちは神から恵みを受け取ることが出来ます。そのときわたしたちは心の耳を傾けましょう。「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」。この言葉はわたしたちを支え、導く灯火となるでしょう。キリストの福音にたえず立ち帰り、み前にあつて謙遜であるように、他者には憐れみ深く柔和な者となれるようにご一緒に祈りましょう。